

TOKYO KASEI PRESS

2026
1
Vol. 106

学校法人渡辺学園 広報誌 なでしこ

学校法人渡辺学園
創立140周年記念館

社会的課題に向き合う
2つの新しい学びの“環”





学校法人 渡辺学園創立 140周年記念館

Watanabe Gakuen Educational Foundatio 140th Anniversary Memorial Hall

2026年10月 完成予定

渡辺学園創立140周年記念館は、社会課題の解決につながるデジタル時代のスキルと創造性の育成を目指し、学生ファーストで環境を整備し、2026年10月、板橋キャンパスに完成する予定です。



A棟 7F
イメージーションガーデン*
表現力を磨く映像拠点
全学共通教育科目の「デザイン思考B」の授業などで、映像メディア制作の基礎を学びます。2つの「スタジオ」では、学生自身が授業の課題、社会課題プロジェクト、サークル活動あるいは就活で使う動画の撮影などを行い、表現力を磨くことができます。さらに、学内ワークスタディ活動としてデジタルに強い学生は、「イメージーションハブ」を利用し自主的にデジタル技術を学びたい他の学生へのアシストを行うことができます。



A棟 8F
クロスメディアガーデン*
つながる、広がる学びの体験
「クロスメディアサテライト」では、板橋・狭山両キャンパスをオンラインで結んだ合同授業に、圧倒的な映像体験を通じて参加することが可能です。狭山キャンパスにも「クロスメディアサテライト」を設置しますので、授業だけでなくサークル活動やイベントなどキャンパスを超えた学生間の交流もできます。さらに、ものづくりガーデンやイメージーションガーデンでの成果を最新のクロスメディアの活用により、学生のみならず様々な形で発表することができます。



A棟8階からの眺め

B棟 1F
大屋根テラス
出会いから生まれる創造スペース

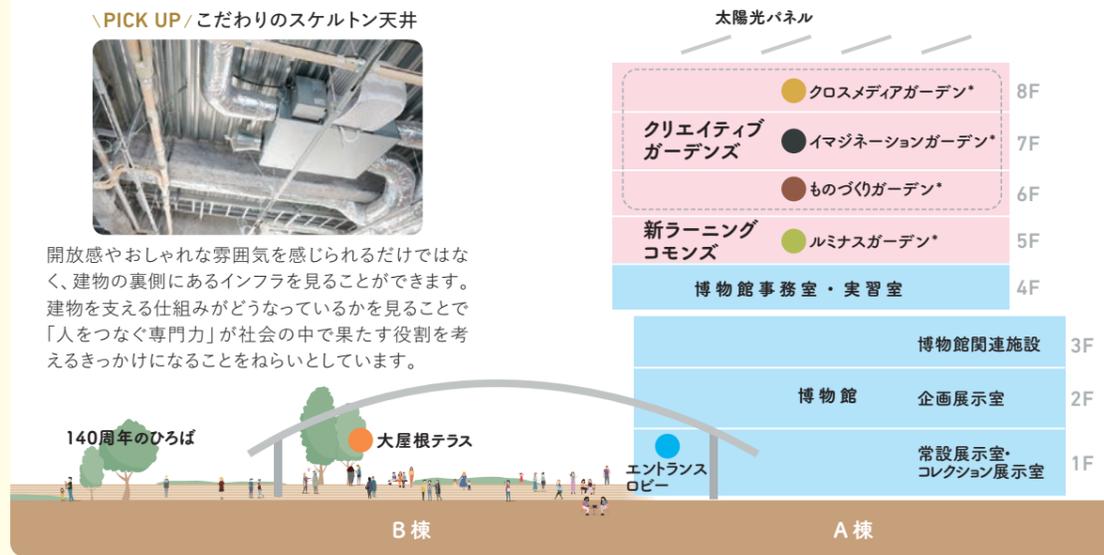
中学・高校・大学・学外など、十条門から訪れるすべての方を迎え入れ、それぞれの場所への中継点として人が交わる場所です。そして、憩いとくつろぎ、学びやサークル活動などによる表現発信の場、人と人、人とモノ、人と学び、などの交流の結節点となります。学生のアイデアで無限に広がる表現創造スペースです。



A棟 6F
ものづくりガーデン*
アイデアを形にする制作空間
全学共通教育科目の「デザイン思考A」の授業などで、デジタルファブリケーションの基礎を学び、3Dプリンタなどの活用が出来るようになります。それを元に、学生のみならず自身が授業・自主活動などでの多様な社会課題解決プロジェクトに取り組むことができます。その取り組みを支える場である、「Fabスペース」2箇所や、「ものづくりギャラリー」、「ものづくり commons (オープンスペース型講義エリア)」を活用できます。



140周年記念館フロアガイド



A棟 1F
エントランスロビー
学びの始まりを感じるロビー



CLOSE UP!

杉板浮造り調
コンクリート打ち出し



安全第一！理事長が先陣を切って視察へ

A棟 5F
ルミナスガーデン*
学びをシェアする知の広場



個人の学びをシェアし、新たな価値を共創する「知の交差点」です。集中して熱く議論するガラス張りのキューブ、即座にアイデアを形にしてプレゼン練習ができるモニター完備エリア、人数に合わせて変幻自在な可動式のテーブルとイス。その日のニーズや気分に合わせてレイアウトが学生の創造力を引き出し、一人ひとりの自分らしい学びを実現します。

新校舎コンセプト

伝統・現在・未来を結ぶ140周年記念館

140周年記念館は学園の伝統と未来、そして現在を結ぶ建物です。本記念館は、学生の集いと出会いの場としての「大屋根テラス」、歴史と伝統を訪ね、次の時代を見据える場としての「博物館」、未来への新たな学びと研究の場となる「新しいラーニング commons (5F)」とDX推進フロア(6・7・8F)という3つのコンセプトからなります。これら3つのコンセプトが一体となり、伝統を訪ね主体的に学び、society 5.0を視野に入れ超スマート社会の未来を生きる力を育む場となります。



学環特設サイト

東京家政大学の「学環」は、複雑化する現代社会を読み解き、自身の人生をデザインするスキルと知識を身につける新しい教育課程です。従来の大学の枠組みを超え、企業や自治体等と連携するプロジェクト型学習を中心とした総合的な学びを通じ、正解のない課題に取り組む多角的な視点と実践的な技術、柔軟な思考力を育成することを目的としています。卒業時には学部や学科と同様に「学士」の学位が得られます。



学環とは？

2026年 4月 社会的課題に向き合う 2つの新しい学びの“環”

2025年度は学環の準備期間として、教員主導で複数のプロジェクトを実施。その代表的な取り組みを紹介します。

文化情報学環 (設置予定)

社会における情報を効果的に活かして、新たな価値とともにストーリーとして発信する



推しの木ワークショップ

地域をフィールドに、発見を形にする「推しの木ワークショップ」

文化情報学環の学びは、教室の中だけに留まりません。地域社会全体をフィールドとした実践的な学びを展開します。その象徴的な取組の1つが「推しの木ワークショップ」です。これは野村不動産との連携企画で、学生が企画・運営の中心となり、地域の小学生と共に緑豊かなキャンパスや街を探索し、自分だけのお気に入りの木＝「推しの木」を見つけるプロジェクトです。参加者は五感を使い木々を観察し、その魅力を伝える「応援うちわ」を制作します。このプロセスを通じて、身近な自然の多様性に気づき、地域への愛着を育むだけでなく、発見した魅力を他者に伝える表現力を養います。また、本企画は地域とも協働し、成果物は北区公益施設「ジェイトエル」で展示されました。教室を飛び出し、多様な人々と連携しながら、地域の資源を活かして新たな価値を創造する。このワークショップは文化情報学環が目指す実践的な学びを体現しています。



文化情報学環 学環長 (就任予定) 白木 賢信 教授

分野を越えて文化と情報を探究

「文化が好きだけどAIやプログラミングも必要?」「興味が多すぎて1つに絞れない」。そんな思いに応えるのが文化情報学環です。SNSが文化を変え、新たな交流が生まれる現代、分野を横断する視点が不可欠です。多様な専門分野が連携する「学びの環」の中で、学生の興味を組み合わせ、現代社会に必要な新たな問いを編んでいきます。

社会デザイン学環 (設置予定)

現場からより良い社会をリ・デザインする力を身につける



3Dプリンター体験ワークショップ

3Dプリンターを、生活に活かす学びの体験

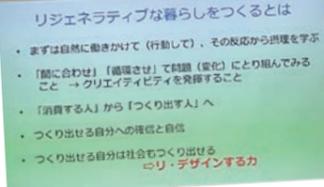
十条駅前ビルにある北区公益施設「ジェイトエル」と連携し、夏に3Dプリンター体験ワークショップを2回、おこないました。親子向けにはキーホルダー作りを、福祉関係者には自助具作りを、レクチャーも含め実施し、デジタル機器を生活の中で活用することを学びました。



社会デザイン学環 学環長 (就任予定) 尾崎 司 教授

産官学連携で実践から学ぶ

現在、企業や自治体との実践実習や連携プロジェクトの相談・打ち合わせをおこない、その共創の実現にワクワクしています。企業や自治体と連携してきた、これまでの経験を活かし、そのノウハウを全て学生たちに伝えていきたいと思っています。社会デザイン学環の1期生と共に、東京家政大学の未来を切り拓いてまいります。



上映会「食べることは生きること」& オープニング・シンポジウム

食と循環型社会をテーマに 企業と共に議論

社会デザイン学環オープニング記念として、学園祭で上映会及びシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、連携する企業や非常勤講師予定の方と本学教員が「リジェネラティブな暮らし」について語り合いました。無印良品の農家や地域とのつながり、パーマカルチャー、ヒューリップの地域連携プロジェクトなどの話を通じて、食と循環型社会について考えました。

体験ワークショップやシンポジウムの取り組みには、オープンキャンパスや説明会で募集した高校生ボランティアが20名参加してくれました。来年度からは、1年生と共に、こうした活動を学生主体で展開していきたいと考えています。

在学生在紹介する私の学び

QUESTIONS

- Q1. 学業について
- Q2. 東京家政大学の推し



東京家政大学

仲間と創り上げる学びと遊びに

全力の学生生活



家政学部

児童学科 児童学専攻4年 K.M.

A1. 私はクラスの仲間とともに学生生活の中でいかに楽しく充実した日々を過ごせるか、という部分に全力を尽くしました。空きコマでは少しの時間でも遊びに出かけ、近くの商店街を散策し、いいお店があったらクラスの仲間と共有しました。参加型の授業では自分たちの想像力を働かせ、ユニークな作品を作り上げたり、本気で演技したりと楽しく学びを深めました。授業や課題、実習で忙しいことも多くありましたが、その度にクラス全体で支え合い、情報共有をして乗り越えてきました。そんな戦友とも言える大切な仲間と忙しいながらも全力で大学生を謳歌している毎日が本当に幸せです。

A2. 個性豊かな授業です。特に笹井先生の授業で作曲をして発表したことを今でも鮮明に覚えています。2年生の時に作ったその歌はブームとなり、今でもことある事に歌われています。このように自分たちで考えて作り上げるような授業が多くあるため、チームで動く力やユーモアセンスが磨ける部分が魅力だと考えました。



クライアントのより良い生活を考え向き合う

人間生活学総合研究科

臨床心理学専攻 修士課程2年 H.Y.

A1. 大学院では、自主性を大事にしています。臨床心理学専攻は1年生の時のみ授業があるのですが、ほとんどが、各自で調べたことを元に授業内で発表したり、ロールプレイを通してどのようにカウンセリングを行っていけば良いか話し合ったりと自分たちで考え行動していました。1年生の後半から臨床相談センターにて実際のケースを受け持つことになり、どうすればクライアントがより良い生活を送れるのか、相談員の先生や教授と相談しながら考えていきます。様々な環境、悩みをもつクライアントに対しどのように向き合っていくのかを考えることができる貴重な環境だと感じています。

A2. 私の好きな場所は15号館のテラスです。春先などは風も心地よく鳥の声も聞こえてきてとても落ち着ける場所です。気分転換がてらテラスで友達とお茶をしたり勉強をしたりすると普段と違う雰囲気でもできて院試勉強の際にも活用していました。またマスコットキャラクターのりょくくんも好きでステッカーなどはつい買ってしまいます。



人と地域をつなぎ、支え合う学びを探究



人間生活学総合研究科

教育福祉学専攻 修士課程2年 Y.S.

A1. 現在「高齢者はなぜ喫茶店に通い続けるのか」をテーマに、喫茶店を利用する65歳以上の方にインタビュー協力をしていただき、結果を分析しています。高齢者が長い間利用してきた喫茶店を、介護予防の視点から「地域の資源」として、もっと活用できないかと考えています。昨年度まで教育福祉学専攻には私1名だったのですが、今年度は後輩が入学し、2名となりました！2人で一緒に授業を受けることもあり、授業で扱うテーマや論文について議論したり、お互いの研究内容について話したりすることができ、とても楽しいです。

A2. 図書館の個室の自習スペースが好きです。個室で集中してパソコン作業や課題ができます。授業前、少し早めに大学に到着し、その日の授業の準備のために使用することも多いです。集中が切れてきたらフロアを歩き、興味のある本を立ち読みして気分転換しています。

人間生活学総合研究科

健康栄養学専攻 修士課程2年 E.A.

A1. 職務経験を積む中で研究の経験値が少なく、業務の幅を広げるために入学を決めました。大学の時は、管理栄養士を取得することが第一の目標であり、必要な科目を素直に履修し、学んでいました。修士課程は、自ら学びたい内容を考え、シラバスを見て選ぶことで独自の科目設定ができます。そのため、横断的な学びから多岐にわたる研究方法を学ぶことができます。先生方も仕事との両立にご理解くださり、スケジュールなど柔軟に対応くださり無理なく学ぶことができます。長期履修の3年間で、年代を問わず研究について語りあえる仲間ができました。

A2. カフェLuceでクラムチャウダーを飲みながら、パンをいただくお昼の時間は、格別です。仕事を終えて授業に向かう時は、授業に集中して取り込む為に気持ちのリセットをする場所です。また、図書館は、読みたい本、調べたいことが見つかる安心感があります。自分のペースで学習できる場として大学生の時から大好きです。

出会いが導いた学びと成長

すべてが財産になった日々



人間生活学総合研究科

児童学児童教育学専攻 修士課程2年 T.A.

A1. 多くの出会いがあった学生生活でした。私は劇あそびについて研究しましたが、先人たちの知恵によって考えが深まり、足場が固まってくるのを感じていました。同じ志を持つ院生と語り合い、もの見方が変わりました。ずっと大切にしたい、かけがえのない友を得ました。先生方の講義から保育の素晴らしさを再認識し、励ましのお言葉に何度も支えられました。上質な表現に触れ、自らを磨く機会をいただきました。学生さんのひたむきな姿から、抱えきれないほどのパワーをもらいました。大学院はどんなところ？と聞かれたら、「出会いのすべてが財産となる場所」だと答えます。

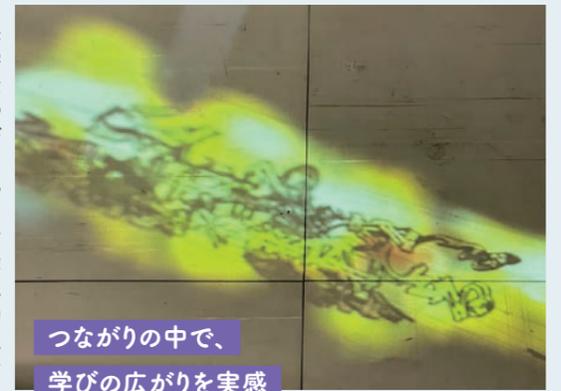
A2. 120周年記念館1階に、お昼時だけ出張してくださるパン屋「フレーバー」さん！おすすめはカレーパンとチーズコーンです。あたたかい店員さんと美味しいパンに、いつも元気をもたらしていました。たくさん労いの言葉をかけていただきました。3年間本当にお世話になりました。ありがとうございました！

人間生活学総合研究科

造形学専攻 修士課程2年 Y.A.

A1. 私は、子育てをしながら大学院で研究に取り組んでいます。研究では、物語を言葉から視覚的・空間的な表現へと置き換える作品を制作し、「言葉を読み取る」という行為を問い直しています。授業でも、子どもの作品に込められた思いを読み取るなど、研究とつながる学びを得ています。子育てとの両立は大変ですが、大学院の制度や先生方の理解に助けられ、自分のペースで学びを進めることができている。今後も、研究と子育てを支えにしながら、自分らしい表現の追究を続けていきたいです。

A2. 7号館前に広がる森のようなエリアです。アートキャンプをはじめ、さまざまなイベントが行われ、学生の表現と地域とのつながりが育まれます。附属幼稚園の子どもたちとも自然に関わりが生まれ、温かな学びが循環するこの場所を推しています。



つながりの中で、学びの広がりを実感

仕事と学びの中で、研究の楽しさを再発見



人間生活学総合研究科

英語・英語教育研究専攻 修士課程2年 S.M.

A1. 1年半前の入学式は、休職して新たな一歩を踏み出した感慨深い日でした。現在は、英語教師の小中連携に関する信念をテーマとした修士論文を執筆中です。収集したデータを分析する過程はトライアンドエラーの連続ですが、少しずつ視界がクリアになってくるようで面白いです。第二言語習得論などの理論や授業で触れた多様な実践と自身の経験を往復させることで、教師としての視野も広がりました。貴重な2年間でやり切るつもりで入学しましたが、今は修了後も学び続けたい気持ちが強くなっています。現場に戻り、学びを実践に活かしていくのが楽しみです。

A2. やっぱり院生室の窓から見える景色が一番好きです。キャンパスはいつも綺麗に手入れされていて、季節ごとに表情を変える景色に心が和みます。今年は授業等がオンライン中心となりキャンパスに行く機会は減ってしまいましたが、たまに院生室を訪れるとホッとひと息つけます。静かな環境で研究に集中できる、ありがたい場所です。



穏やかな環境で、探究の力を育む



家政学部

服飾美術学科4年 K.M.

A1. 自分探しをするきっかけになればと考え、学科の専門教育科目の履修によって得られる教員免許(中高家庭科)、1級衣料管理士、学芸員など3つの資格取得に向けて日々励んできました。資格取得に向けての過程は決して容易ではなく様々な困難に直面しましたが、多くの学びを得ながら自己の成長につながっていることを実感し、忙しい中にも非常に価値のある経験になりました。特に自分と向き合うことの大切さを学び、就職活動の際に大きな強みとなりました。大学での経験を活かし、これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています。

A2. 服美の推しは、ニードルアート、ニットの授業です。服づくりも楽しいのですが、手芸の授業では刺繍やニットのかわいらしい小物を製作できるのが推しポイントです!自分でデザインを考え、イメージしながら材料を買いに行くのも楽しいです。一度技法を習得すると、日常生活の様々な場面で活用できます。

学びと創作で、自分の可能性をかたちに



光あふれる空間で育った、表現する力

家政学部

造形表現学科4年 O.M.

A1. 入学当初からグラフィックデザインに強い関心を持ち、授業でも特に力を入れて学んできました。初めは知識や技術不足により思い通りに制作できず、とても苦戦したことが強く印象に残っています。しかしそこで諦めることなく、試行錯誤を繰り返したり、他の学生の作品を見て刺激を受けたりして、少しずつ自分の表現ができるようになり、成長を実感しながら制作に打ち込みました。幅広い授業を通してWebデザインにも興味を持つようになり、現在はグラフィックデザインを主体に、一部Webデザインを取り入れた卒業制作に取り組んでいます。

A2. 85周年記念館のラウンジです。グラフィックデザイン実習室もお気に入りの場所ですが、ラウンジには友達と過ごした楽しい時間や課題に悩んだ思い出がたくさんあります。広くて開放的で、自然光がたくさん入る居心地の良い空間なので、空きコマの時間はいつもここで過ごしていました。

留学と教職を両立し、仲間と共に成長した4年間



家政学部

環境教育学科4年 Y.S.

A1. 私の家政大での学生生活は「挑戦」の4年間でした。力を入れたことは、学科での実験や卒業研究、資格取得、教職課程での介護等体験や教育実習、英会話や海外研修など多岐に亘ります。当然、不安はつきものでした。しかし、学科の先生方、教職課程の先生方、グローバル教育センターの先生方がサポートをしてくださいました。また、その中で多くの仲間と出会い、支え合ってきました。大学4年間は自分次第です。月並みの言葉ですが、振り返ってみると「失敗を恐れず挑戦する」これに注力した学生生活だったように思います。

A2. ルーチェです。推しポイントは、①大好きなカプチーノが飲める②友人と話しながらか勉強ができる③十条門から近い、この3つです。皆さんもぜひ、出来立てのドリンクをお供に勉強してみてください!いつも以上に頑張れますよ!また、十条門からも近いので、利便性も高く、隙間時間を過ごすにもぴったりです。

仲間と挑戦を重ね成長した充実の学生生活



人文学部

英語コミュニケーション学科4年 S.H.

A1. 東京家政大学での4年間は、ニュージーランドへの留学と教職課程の両立に全力を注ぎました。留学前には先生方が面談で不安を丁寧に聞いてくださり、現地で安心して学べるよう細やかにサポートしてくださいました。帰国後は教育実習や授業準備、課題に追われる忙しい毎日でしたが、同じ目標を持つ仲間と支え合いながら乗り越えることができました。困ったときにすぐ相談できる先生方や、温かく迎えてくれる環境が常にそばにあり、自分の成長を実感できたことが何よりの財産です。挑戦するたびに人の優しさを感じられる大学生活でした。

A2. 食堂前の広場とグローバル教育センターです!広場は空が広く見え、夕焼けがとても綺麗な癒スポットです。疲れた日も空を見上げると幸せになれます。また、グローバル教育センターは英語教材が豊富で、先生方にも気軽に相談できる温かい場所。勉強もリフレッシュもできる、私のお気に入りの空間です!

家政学部

児童教育学科4年 I.H.

A1. 私は、大学の講義とアルバイト、ボランティアを両立しながら、毎日目が覚めたくも充実した大学生活を過ごしてきました。忙しい中でも全てに手を抜かず頑張れたのは、小学校教師という夢と、一生の友人に出会えたからです。夢の実現に向けて特に力を入れたのは模擬授業です。より分かりやすい授業になるよう仲間と意見を出し合い、改善を重ねたことで、教育実習でも子どもと共に学びをつくる喜びを味わうことができました。私にとってこの4年間は、学びと人とのつながりに恵まれた何にも代えられない宝物です。

A2. あたたかくて居心地の良い環境です。学科の仲間はもちろん、先生方も距離が近く、困った時には親身になって話を聞いてくれます。入学前に想像していた少し孤独な大学生活とは違い、同じ夢に向かって励まし合える仲間がいるこの環境が大好きです。さらに、緑豊かで落ち着ける所もお気に入りです。



夢に向かい挑んだ模擬授業 仲間と先生がくれた力

栄養学部

管理栄養学科4年 S.A.

A1. 卒業研究に力を注ぎました。3年次から研究室に所属し、肥満に関わる遺伝子の研究に取り組んでいます。昨年5月には、名古屋で開催された学会で口頭発表に挑戦し、緊張しつつも先生方との議論を通じて多くの学びを得ることができました。研究室は雰囲気も良く、緑苑祭では有志でレモネードを販売しました。エプロンやポスターも手作りし、研究とはひと味違う学生らしい思い出も残せました。来年度からは本学大学院へ進学します。まだまだ未熟ですが、いつか私の研究が誰かの健康に繋がる事を願い、努力を続けていきます。

A2. Luceで販売しているパンです。種類が豊富で、どれも200円前後とお手頃価格、そして何よりサクサクふわふわで美味しいところが推しポイントです。試験勉強の合間にはLuceのパンで糖分をチャージし、勉強に励んでいました。特に気に入りはメロンパンです!皆さんもぜひ食べてみてください!

研究もLuceのパンも、家政で見つけた私の好き



仲間と支え合いながら、実践力と成長を重ねる学び



家政学部

児童学科 育児支援専攻4年 U.A.

A1. 私は社会で活躍するための実践力を身につけることに力を入れてきました。特に2年生の後期から始まる実習では適切な目標を設定し、計画的に準備を進め、実践力を身につけることができたと思います。全ての実習でスケッチブックシアターやホワイトボードシアターを準備し、好きなことを活かして子どもたちと楽しむ時間を作りました。将来は、子どもに関わる仕事に就きたいと思っています。子どもがたくさん遊びに会い、遊びを通して様々な経験ができるよう援助をしていきたいと思っています。

A2. 「クラス」です。私が所属する学科は、クラス単位での授業が多いため、4年間を通して授業内でのクラスの友達との思い出がたくさんあります。クラスの友達と支え合い、共に勉学に励んだことで大変なことも乗り越えることができました。私にとってクラスは大切な居場所です。



食と学びで、満たされる心と体

栄養学部

栄養学科4年 Y.Y.

A1. 私は高校生の頃から食が好きなことが好きで、美味しく健康的な食事作りや調理過程における食品の化学変化に関心を持ち、本学の栄養学部に進学しました。授業では学んできた栄養学や食品学を献立作成に活かし、サークル活動やhulipでのレシピ考案に力を入れてきました。将来は健康的な食事を作る栄養士の力になれるような食品作りにも貢献したく、より食品の勉強がしたいと思い、大学院への進学を決意しました。機器分析等を通してさらに食品の魅力を引き出せるように今後も切磋琢磨していこうと思います。

A2. 私はキャンパス内にある学生食堂Luceが推しです。忙しい学生生活の中で友達と楽しくお昼を食べることができる場所で、思い出に強く残っています。お昼以外は落ち着いた雰囲気だったので自習勉強にも利用させていただき、学内のまったりスポットでした。週替わりのランチも楽しみの1つです!

健康科学部

リハビリテーション学科 作業療法学専攻4年 F.H.

A1. 私は1.2年次に緑苑祭実行委員を経験しました。他学年のみならず、他学科とも協力し、同じ目標に向かって活動していくことで、普通の学生生活では経験できないような団結力や達成感を実感することができました。また、学外の方も多く関わるため将来社会に出る練習の機会にもなりました。メールの書き方や言葉遣い、自分の意見を言うことなど実習や就職活動に活かせることも多くありました。緑苑祭実行委員会で一緒だった先輩や後輩、同級生と親密な関係になれた緑苑祭実行委員会は学生生活の一番の思い出です。

A2. 狭山キャンパスは自然が豊かなところが魅力の1つだと思います。時々キャンパス内でネコに会うことができるため勉強で疲れた時の癒しになっています。また、季節ごとにさまざまなお花が咲き、講義室やゼミ室からも見ることができます。そのため室内にいても自然を感じられるところが好きな部分です。



協力し合う喜びと、
自然のぬくもりに満ちた日々



学びと成長を重ねる日々
幼児教諭の夢に向かい、

子ども支援学部

子ども支援学科4年 I.Y.

A1. リトミック免許の取得に力を注ぎました。リトミック免許の対策授業では試験で行う様々な内容を学んで身につけることができます。特に即興の項目ではピアノを使ってテーマをその場で表現することが求められるので音のイメージを表現する楽しさを感じました。リトミックの試験を通して音楽の基礎理解や音感が高まったと思います。リトミックは楽しみながら音楽の基礎を自然と学んでいけるところが魅力だと授業を通して学んだので、将来幼稚園教諭として子どもたちと一緒に楽しんでリトミックに取り組んでいきたいです。

A2. ピアノ室です。各部屋に一台ピアノがあり、広い部屋にはピアノが二台あるので友達と一緒に練習することもできます。授業では子どもの音楽Ⅲ・Ⅳで使うことが多いです。空いた時間に友達とピアノ室にこもって集中して練習をして、アドバイスをもらって弾き歌いの試験を乗り越えたので思い出深い場所です。

健康科学部

リハビリテーション学科 理学療法学専攻4年 H.M.

A1. 大学2年次に、後援会のドリームプラン奨学金を利用し、腰への負担の少ない抱っこ紐を開発しました。きっかけは叔母が子どもを抱っこし終えた際に腰をさする仕草を目にしたことにあります。実際に使用して確かめることから始まり、使用者へのインタビューなどを実施しました。機能だけでなく素材なども意識しながら実際に作成して抱っこ紐を完成させ、使用した方から腰が楽になったと言ってもらえました。この経験から身近な事柄に興味を持ち行動すること、メンバーと協力しながら最後までやり遂げることの大切さを学びました。

A2. 学科の魅力は、海外スタディーツアーです。カンボジアでは現地の病院だけでなく、大学や小学校、孤児院などたくさんの施設を視察してきました。リハビリテーションができる環境があること自体難しいなど日本から見た世界、世界から見た日本を感じることができ、自分たちに何ができるのか考える貴重な機会となりました。



人を想う気づきが、
学びを世界へ広げていく

人文学部

教育福祉学科4年 E.S.

A1. ゼミ活動やサークル活動に力を入れて学生生活を過ごしていました。3年次でのゼミ活動は、子ども食堂の立ち上げなど座学や普段の授業では経験できないことにも携わることができ、数多くのことを実践的に学ぶことができて非常に貴重な活動でした。1~3年次で加入していたサークル活動では、東京家政大学の他学部の学生だけではなく、他大学との交流もあり、さまざまな学生と協力しながら活動することができました。他にも、ボランティア活動や留学など、自分が興味を持ったことに積極的に取り組むことができた学生生活だったと思います。

A2. キャンパスの自然の豊かさです。東京家政大学のキャンパスは緑が多く敷地も広いので、のびのびとできる環境だと思います。また、季節ごとの桜や紅葉などの風景もキャンパス内で楽しむことができます。写真の場所は、授業で使用する他に、附属幼稚園の子どもたちが遊んでいることもあり、その姿にも癒されています。



多彩な活動と自然に支えられた、
充実のキャンパスライフ

健康科学部

看護学科4年 G.K.

A1. 私は看護の勉強、実習に力を入れて大学生活を送ってきました。実習では、患者さんの不安を傾聴し、安心感をもたらす声掛けや強みを活かしたケアを実践できるように尽力してきました。実践する看護について悩むこともありましたが、同じ実習グループの学生や先生方に助言を頂き、乗り越えることができました。看護師を目指す学生同士、切磋琢磨しながら看護を学ぶことは私にとって、良い経験になっています。将来は、手術室で患者さんをサポートする看護師を目指しており、常に看護の知識、技術を学び続けていきたいと思っています。

A2. 学食です。気軽に立ち寄ることができ、広々としているためゆっくり食事をとることができます。また、日替わりのランチだけでなく、デザートや軽食などのメニューもあります。授業後に友達とおしゃべりしながら、美味しいご飯を食べることができるので好きです。



心が学び、人とつながる
かけがえのない日々

人文学部

心理カウンセリング学科4年 K.R.

A1. 心理専門職として働くことを目指し、授業やボランティアに力を尽くす大学生活を送ってきました。座学はもちろん、実習やロールプレイなど、実践的に学ぶ授業にも力を入れて取り組んでいます。現在は現場での実習をさせていただいており、心理士に求められる役割や専門性、かかわりの持ち方などを体験的に学んでいます。学びを深める中で、知識を実際の現場で活かしたいという思いが強まり、不登校支援のボランティアにも参加しはじめました。励まし合える友人にも恵まれ、学びと人とのつながりに支えられて充実した4年間でした。

A2. 14号館のラウンジが私のお気に入りの場所です。1年生のころから、空きコマや授業のない日にはここに来て、友人と一緒に勉強してきました。疲れたときには、おやつを食べながらおしゃべりしたり、夕焼けを眺めたりして、リラクゼーションの時間を過ごしています。そんな何気ないひとときが、私にとっては宝物です。



支え合う仲間とともに、
看護の心を育てる

食と健康を多角的に学び、 知識を実践へとつなげる



短期大学部

栄養科2年 O.I.

A1. 入学当初から調理学・食品学・栄養学・生化学等の分野から食と健康について学び、充実した日々を過ごしてきました。特に「和・洋・中」の料理の違いや特色に興味を持ち、調理実習では使用する食材や調理方法の違いなどに着目し食材本来の効果を利用する調理において多くの学びを得ることができました。学んでいる過程で食品衛生に関する知識が不足していると食中毒や感染症などを予防することや安全・安心に食べることが出来ません。そのため栄養の知識だけではなく、食品衛生の知識も身につけられるよう力を入れて取り組んできました。

A2. 図書館の和室コーナーです！集中して勉強したい際などによく利用します。推しのポイントは「畳」です。学内は椅子が基本ですが、この和室コーナーでは座布団に座り過ごすことができます。落ち着いた気持ちでリラックスしながら課題に取り組んだり、本を読んだりできる場所がお気に入りの理由です。

仲間とともに成長を 実習や学びの中で 保育者をめざし、



東京家政大学短期大学部

短期大学部

保育科2年 K.S.

A1. 私は家政大学で、将来保育者になるという中学生の頃からの夢を叶えることを目標に、授業や実習に力を入れてきました。授業では、実践に活かせる知識を少しでも増やすためにメモを多くとって覚える、実習では、子どもの関わりの実践と保育者の方へ質問する機会を通して自分の技術を磨くという形で努力を重ねてきました。特に実習は大変な部分も多くありましたが、実習前最後の日には、毎回クラスで「頑張ろうね!」と言い合って乗り越えていました。クラスの仲が良く、みんなのおかげで大変な中でも楽しく学生生活を送ることができました!

A2. 「学生食堂」です。授業の空きコマに友人と学食に行って過ごしています。学食のメニューはどれも美味しく、毎回何を食べるか迷い、決めるまでに時間がかかることばかりですが、友人と「これも美味しいぞうね!」と言いながら悩むことも楽しんでいます。学食で友達と話している時間はあっという間です!

一步、社会へ インターンシップ体験記

学んだ知識を実践の場へ。 未来へのヒントをつかむ。

インターンシップ先 **群馬県**
家政学部 造形表現学科3年 K.A.



美術の視点を取り入れ、森林や故郷のために貢献できる可能性を探りたい

高校時代、理科科で森林について探究した経験から森林職に興味を持ちました。現在学んでいる美術の視点を取り入れ、森林や故郷のために貢献できる可能性を探りたいと考え、自分のふるさとである群馬県環境森林部インターンシップに参加しました。試験研究施設や高校生のチエーンソー実習の見学など、現場での活動を通して多くを学びました。経験の浅い人と熟練した人では伝え方を変える必要があることを知り、美術でペルソナを考える感覚と重なっていると感じました。働くことには責任が伴うと実感し、県職員の方々の、全ての県民のために働く姿勢に深く感銘を受けました。この経験を通して、自分も相手に伝わる表現を意識し、責任を持って行動できる人間に成長し

林業のサポート事業や木材関連のイベント、資格取得などを通じて、現場を知りながら自分にできることを見つけていきたいです。 **今後の挑戦!**

美術の視点から森林や地域の魅力を発信する方法も探り、自然と人をつなぐ表現に挑戦してみたいです!



学んでいる造形力を 社会の課題解決にも活かしていく

今回のインターンシップを通して、美術の学びはどんな分野でも活かせることを確信しました。森林職の方々に伝える工夫をしていたように、私も大学で「相手に伝わる表現」をより深めて将来に繋げていきたいと思えます。また、インターンシップ中に木材や炭の話の伺い、美術と森林資源を組み合わせる可能性にも興味を持ちました。素材そのものの魅力を伝える表現や、木材振興に関わるデザインなど、学んでいる造形力を社会の課題解決にも活かせるのではないかと感じています。

さらに、大学ではSNS部に参加し、広報や発信に挑戦することを始めました。多くの人に届くように表現を工夫する点で、美術の知識が役立つことを実感しており、今後も責任を持って取り組みたいです。

インターンで得た「伝える意識」と「責任感」を、自分の表現活動全体に生かしていきたいと思っています。

インターンシップ先 **株式会社LEOC**
栄養学部 管理栄養学科3年 T.M.



伝え方や見せ方次第で、印象の残り方を大きく変える

私はインターンシップに参加したことで、調理の工程の順番や、プレゼンテーションの伝え方をより意識するようになりました。私がこのインターンシップに参加した理由は、この会社の強みである「オーダーメイドスタイル」での食事提供にとても魅力を感じ、それをどのように実現しているのかを知りたかったからです。実際にインターンシップで、複数あるテーマの中から私は「脂質オフ」を選び、献立作成・調理・プレゼンテーションを行いました。この5日での試作を3回行いましたが、本番の調理では時間がかかりすぎてしまいました。その悔しさからインターンシップ後に家で料理をする頻度が多くなり、その結果学校の調理実習では時間を考えながら調理ができるようになりました。また、プレゼンテーションでは「脂質25%オフ」ということを強調して発表しましたが、フィードバックの際に、「カットできた脂質の重量に近い食品を用いて表した方が分かりやすい」と教わり、伝え方や見せ方次第で、印象の残り方が大きく変わること学びました。これをきっかけにプレゼンテーション

食を通じて人々の生活や健康を豊かにし、トレンドも取り入れた食の提案をしていきたいです! **今後の挑戦!**



を行う際は、客観的に見て、少しのニュアンスの違いでも言葉選びを考えるようになりました。

このインターンシップを通じて、「オーダーメイドスタイル」の大変さややりがいを感じる事ができました。

自分のアイデアに根拠を持たせ、相手が納得のいくものを提供

私は将来、食に関わる仕事をしたいと考えています。大学では食に関わることを感覚的ではなく、学問的に学びました。この学びを用いて、自分のアイデアに根拠を持たせ、相手に納得してもらえらるものを提供したいと考えています。

また、インターンシップでは、喫食者へ喜びを提供することが重要であると同時に、一緒に調理する方への配慮も同じくらい重要であることを学びました。今後仕事などで一緒に働く方とのコミュニケーションや思いやりも大切にしていきたいです。



卒業研究発表会

入場無料

※一般の方も見学いただけます。
※卒業研究ファッションショーのみ事前申込制

2026
1/27-30
TUE FRI

展示発表会

時間：10:00～17:00
会場：板橋キャンパス120周年記念館1F
多目的ホール

※写真は昨年度の様子です。



2026
1/29
THU

口頭発表会

時間：10:00～16:00
会場：板橋キャンパス
1号館6A講義室

※写真は昨年度の様子です。

服飾美術学科では、科学・服装史・教育・ビジネスなどの分野で、実験や調査による卒業研究を行っています。これらの研究成果は、卒業論文を執筆すると共に、口頭発表会で研究発表を行います。

2026
2/11
WED (HOLIDAY)

ファッションショー

時間：Stage1 開場10:30、開演11:00～
Stage2 開場13:00、開演13:30～
Stage3 開場15:15、開演15:45～
会場：板橋キャンパス120周年記念館1F 多目的ホール

※写真は昨年度の様子です。



学生が中心となり、本学にゆかりのある皆さまをお招きし

アートキャンプ2025

を開催しました。

開催日：2025/10/4 (SAT)・5 (SUN)



2026
2/11-15
WED (HOLIDAY) SUN

卒業制作展

会場：北とびあ地下1F
展示ホール
〒114-8503 東京都
北区王子1-11-1



開催時間は
ホームページを
ご確認ください。

※写真は昨年度の様子です。





Instagram



WEB

NEWS

2025年
9月10日

140周年記念・
土居則子奨学金

令和7年度東京家政大学 140周年記念・土居則子奨学金授与式が狭山キャンパスにて執り行われました。看護学科とリハビリテーション学科の5名の学生が受賞しました。



140周年記念・土居則子奨学金とは

土居則子先生(東京家政大学1963年卒業生 本学名誉教授)の寄付金により創設された奨学金制度です。土居則子名誉教授のお母様が戦前、看護師・助産師として病院に勤務されていたことから、医療系職業人養成である健康科学部の学生を応援したいとの思いで設立されました。

学科の実践的な学び

看護学科では、全員取得の看護師国家試験受験資格に加え、保健師、助産師の国家試験受験資格も取得できることが大きな特徴です。

取得できる資格・
目指せる資格

- 看護師国家試験受験資格(全員取得が原則)
- 保健師国家試験受験資格(選択)
- 助産師国家試験受験資格(選択)



実践教育のPoint

Point 1 領域実習 全員必修



領域実習の様子

3年次に約7か月にわたり、母性看護、小児看護、成人看護、老年看護、地域・在宅看護、精神看護の各領域で実習を行います。

Point 2 保健師課程 保健師課程必修



母子保健 新生児訪問実習の様子

保健師課程(選抜制、定員20人)では、市町村保健センター実習に向けて、家庭を模した実習室で、新生児訪問の事例演習と体重測定の実技演習を行います。床の間の掛け軸は後援会からご寄贈いただいたものです。

Point 3 助産師課程 助産師課程必修



NCPR(新生児蘇生法)資格認定講習会の様子

助産師課程の学生は、分娩介助実習に入る前にNCPR(新生児蘇生法)資格認定講習会を受講します。この講習会を通じて、新生児の緊急時対応に必要な知識と技術を習得し、実習に備えています。

\#Feature/

学生主催で子育て教室も
開催しています!

助産師課程の学生は、子育て教室を主催し、産後の母子と家族が健康的で楽しい育児を行えるよう支援しています。この活動を通じて、助産師としての地域母子保健における役割認識と実践力を高めています。



卒業生から
後輩たちへ



卒業生と在学生の交流会を年1回開催しています。学内には卒業生から後輩たちへのメッセージが掲示されており、卒業生との繋がりも大切にしています。



2025年9月10日(水)
株式会社日比谷花壇と
包括協定を締結

本学は、9月10日、株式会社日比谷花壇と包括協定を締結しました。同社とはこれまで授業やイベント等で協働し、社会連携の取り組みや意見交換を重ねてきました。今後は花と緑に関する教育や教員・学生との交流などで協力し、大学と企業による社会課題解決の取り組みを目指します。

造形表現学科主催

「アートキャンブ2025」における連携

婚礼やイベント装花で使用している造花を貸与いただき、本学卒業生で現在は日比谷花壇・東京會館店に所属しフラワーデザインを担当するトップ・フロアリストの新井美穂氏が、技術的な助言やアイデアを実現する支援を行ってくださいました。



本学学長 井上俊哉(左)、株式会社日比谷花壇 代表取締役社長 富島浩彰氏(右)

来場者を迎える花の
インスタレーション

2・4m四方の大きなフレームを活かし、花と緑の非日常的な空間装飾を目指しました。日比谷花壇からお借りした造花はもちろんですが、毛糸を編んで作った造花やリボンを使った造花は7名のチームで制作しています。レースを使った空間づくりをイメージしていたのですが、造花の固定方法や効果的な花の配列の工夫など、日比谷花壇の社員の方のアドバイスで私たちのイメージに近いよりよいものができたと考えています。来場されたお子様やご家族が記念写真を多く撮影してくださいました。正門でお客様をお出迎えし、アートキャンブの会場を盛り上げる素敵なインスタレーションができたと思っています。



正門前に設置された2.4m四方の大型の展示「Fleur - Conception de fleurs -」中心となった制作メンバー

家政学部造形表現学科
3年生 安齊まどかさん
1年生 嶋崎碧佳さん

東京家政大学
緑苑クラブ

入会のご案内

委員長のご挨拶



緑苑クラブ 委員長
古屋 智通

緑苑クラブは、昭和43年の設立以来、卒業生の保護者を中心となって、大学の教育・研究活動の発展に情熱をもって寄与してまいりました。学園の記念行事への協力をはじめ、大学の近況を共有し、会員同士のつながりを育みながら、大学との絆をより強く結ぶための活動を精力的に展開しています。

学生の学園生活全体を見据えたサポートをさらに充実させ、大学との連携強化、卒業生との交流、情報発信など、活気あふれる取り組みを次々と実行に移してまいります。会員の皆さまのご意見やご提案を柔軟に取り入れ、より開かれた、そして行動力あるクラブ運営を目指します。

つきましては、是非とも「東京家政大学緑苑クラブ」にご入会いただき、大学の発展に温かいご支援を賜りたくお願い申し上げます。

緑苑クラブへのご入会について

緑苑クラブへご入会いただける方はもちろん、少しでもご興味を持っていただいている方や、まだご入会について迷っている、という方も、お気軽に右記の回答フォームからアンケートの回答にご協力ください!

ご入会のお申込みもこちらから!!

アンケートの
回答フォーム



詳しくは下記の緑苑クラブ事務局までお問い合わせください。

問い合わせ先 東京家政大学後援会・緑苑クラブ事務局
Tel : 03-3961-3264 Fax : 03-3961-5403
E-mail : kouenkai@tokyo-kasei.ac.jp

東京家政大学緑苑クラブ

WEBサイトの
QRはこちら!



緑苑クラブの主な行事・活動
・行事への参加(緑苑祭、合同懇親会等)
・「渡邊辰五郎奨励賞」への助成
・祝賀記念品の贈呈

緑苑クラブとは?
卒業生保護者の会です。会員相互の親睦を図るとともに、大学の教育事業及び大学後援会の事業を援助し、大学の発展に寄与しています。



WEB

東京家政大学附属女子中学校・高等学校

発信と交流が育む力

緑苑祭

中学校

歌声と創造力が響き合う

例年と同じく三木ホールにて合唱祭が行われました。あいにくの雨天にもかかわらず、多くの保護者の皆さまにご来校いただきました。生徒たちは、保護者の皆さまの声援を受け、曇天を吹き飛ばすような元氣一杯の歌声を三木ホールに響かせました。各学年および各部活動の展示発表では、中3学年が作成した巨大なシーサーの張り子をはじめとする、附属中学生の工夫をこらした展示活動を見ることができました。



A校舎玄関(高校本部会が装飾を担当)

高等学校

情熱あふれる舞台

今年度は38団体が緑苑祭に参加しました。雨天にも関わらず、保護者の皆さまはもちろん、大勢の一般のお客さまにもご来校をいただきました。そのおかげで、販売を行った団体では、終了時刻になる前に売り切れとなった販売団体が複数出ました。毎年、好評を頂いている中庭ステージでは、雨が一時的に上がったタイミングを狙い、ダンス部と書道部が予定していたパフォーマンスを披露することができました。直前まで中庭ステージで出



中2学年 家政は世界を救い隊

来るか出来ないかという状況だったので、無事にパフォーマンスが終了した時には、部員たちは安堵の表情を浮かべ、中庭ステージは温かい拍手に包まれました。

ターム留学

中学校
高等学校

留学で広げる視野と未来

今年度も高校1年生が2名、7〜9月の約3か月間オーストラリアでのターム留学に挑戦し、オーストラリアのアデレード近郊で、ホームステイをしながら現地校に通いました。先日帰国した二人は、苦労したことも前向きに楽しみながら、とても充実した日々を過ごせたそうです。自分の将来の目標をさらに明確に描けるようになった、と話してくれました。また、今年度から中学3年生もニュージーランドのオークランドにある中高一貫校に派遣をしています。一学期として参加した生徒は、壁にぶつかった時に支えてくれた、周りの人々への感謝の気持ちを話してくれました。



▲現地の仲間たち

自分の目で見た世界は、これからさらに広がっていくことでしよう。

参加した学生の声



異文化にふれ、広がる視野と学び
高1 A.Kさん

私は留学を通して、国や文化による価値観の違いを学び、多様な視点を持つ大切さを実感しました。現地では教会や病院での医療活動にも関わることが多かったため、今後も医療に携わる経験を積んでいきたいです。また、英語力をさらに伸ばすため、洋楽や映画などで日常的に英語に触れ続けたいです。



食を通して学んだ、文化と心のつながり
高1 K.Aさん

今回の留学では、食文化の違いについて知識を深めたいという目的があり、ホストファミリーや友達と料理をたくさん作りました。料理を通してコミュニケーションを深めることができ、目的も達成することができました。この経験から、将来は食に関する研究をしたいと強く感じました。



異文化に学び、世界で輝く自分へ
中3 O.Kさん

私は将来英語を使った心理学の仕事に携わりたい、と考えていました。留学中は様々な文化に触れ、たくさんの刺激を受けました。これからはもっと英語の勉強をして将来的に世界で活躍する女性になりたいです。



▲オーストラリア現地校にて

理事長コラム No.23

世界を生きる



学校法人 渡辺学園 理事長
菅谷 定彦

日経米州編集総局長時代9

7回もの海外出張、取材

日経産業部次長、部長時代

1974(昭和49)年10月、3年間の充実した日本経済新聞ニューヨーク特派員を終え、東京編集局産業部第3部次長兼編集委員に就任した。部長は日経の頭脳といわれた井上毅さん。井上さんはのち「産業部活性化のため円城寺次郎社長にお願いして菅谷君をもらい受けた」と話したが、産業部第3部は化学・繊維・紙パルプ、食品・住宅・建設、レジャー・サービスと1973(昭和48)年10月の第一次石油ショックの対応等で動きの激しい分野。その中、編集局長賞、同奨励賞を圧倒的多数受賞するなど活性化してきた。

その後井上さんが編集局長次長兼日経産業新聞編集長兼産業部第1部長に就任すると私を産業部第1部次長に指名した。第1部は鉄鋼、非鉄、エネルギー、

商社などが担当、視野を広げることが出来た。私は井上さんの精密な分析力から学ぶことが多かったためこの異動を歓迎したが、「森田康常務(のち社長)から「いつまで菅谷君を引っ張り続けるんだ」と叱られた」と話した。

1982(昭和57)年4月古巣の産業部第3部長に就任した。取締役論議主幹(のち常務取締役)に栄転した井上編集局長の後任には証券部長として活躍した鈴木隆(のち常務取締役、電子媒体のQUICK社長)である。鈴木さんは頭の回転が速いので朝令暮改がしばしば。「リーダーとして困るので止めてください」と進言すると、「菅谷君、時代の変化のスピードは極めて速い。時として『朝令朝改』もありうる」と返事した。

その鈴木さんと私が組んで展開したのが「ドキュメント新・産業革命」である。日本経済新聞、日経産業新聞の第1面とテレビ東京のプライムタイム(午後10時〜11時)で激動する内外産業を同一テーマ同時進行で報道する新企画で鈴木さんから責任部長に指名された私は新聞編集に責任を持つと同時に、テレビ東京の国保徳丸専務取締役(のちテレビ愛知社長)に協力を要請「菅谷君の幅広い人脈でスポンサーをつけてくれれば指定のいい時間帯を提供、全国放送する」との返事。

たまたまその翌日に商社を担当していた新聞社旧キャブと皆川広宗三菱商事副社長との夕食懇談会があり、その終了後、私が日経メディアミックス構想を話し、テレビ番組のスポンサーになって欲しいと伝えると「面白い、明日返事する」との回答。翌日午後には「テレビの1社独占スポンサーになる」との回答を得、新企画の流れが一気に加速し、二度の石油ショック後の我が国産業界の「重厚長大」から「軽薄短小化」「ハイテク時代」への流れを的確に報道、大きな話題を呼び、日経社長賞に輝いた。

産業部次長、部長時代の16年間は私にとって海外取材出張が相次ぐ時期でもあった。産業部第3部次長兼編集委員時代ニューヨーク特派員から帰国直後の1974(昭和49)年5月、サンフランシスコでの日本・カリフォルニア経済人会議の予備会議。次はニュージーランド特集取材で2週間

現地へ。

産業部第1部次長時代1979(昭和54)年米コロラドスプリングスでの世界鉄鋼連盟総会。1980(昭和55)年秋、経済界主導の「輸入促進ミッション」の1番手として韓国訪問が決まり、植田三男日商岩井社長を団長とし総勢127名の団長顧問で韓国(10日間。直後の12月、バリ島でのOPEC(石油輸出機構)総会取材。

当時の日経は海外出張は社長の許可が必要だったが、OPEC、韓国出張は営業担当時代から日経の販売、広告収入を大きく伸ばし、日本新聞協会会長も務めた大軒順三社長から直接声がかかった。OPEC行きでは日経の石油取材体制について答申を求められた。私は石油のエキスパート記者育成には海外の石油担当記者のように欧米の大学や大学院で石油・エネルギーを勉強させ、原油国首脳と電話一本で話せるような専門記者を育成するのが最善と回答。その後大軒社長の指示で留学者が増加した。

産業部第3部長時代、急逝した大軒社長の後継、森田康社長を団長とする日経訪中団の一員として



1983年4月、日経訪中メンバーと中国迎賓館「釣魚台」で。左から、筆者、太田哲夫編集局長、森田康社長、飯島敬治論議主幹、岸清専務取締役、一木豊政治部長。

1983(昭和58)年、中国を10日間歴訪(メンバーは写真参照)。日経と中国の関係は1968(昭和43)年、文化大革命中の日本人特派員中、量質とも抜群の仕事をしていた飯島敬治特派員がスパイ容疑で逮捕、一年半投獄されたことで悪化したが、1977(昭和52)年李先念首相が飯島氏に「四人組の仕事で、中国人民を代表してお詫言」と話したことで決着した。森田ミッションはこれを機に関係を一段と強化するため結成。

北京では最高権力者鄧小平の信頼厚い万里筆頭副首相との面談、人民大会堂での森田社長主催の晩餐会の後、瀋陽(旧奉天)、大連、上海、蘇州の各都市を歴訪、各地の中国政府幹部との懇談を重ねた。北京に到着した夜、中国政府報道局長主催の夕食会の席上、報道局長が、「政府首脳の誰と会談するか明朝知らせる」と言ったので私は「森田社長はじめ日経幹部がそろって訪中したので会談の相手は当日朝とは失礼ではないか」と言うと左に座った飯島さんが小声で「余計な事を聞くな」と左足を靴で踏まれ、中国人通訳も翻訳しなかったが、その後中国歴訪中言っべきことは言う方針は貫いた。

1986(昭和61)年5月から6月、EC(欧州共同体)委員会の招待でベルギーなど5ヶ国歴訪。そして1986(昭和61)年年末、森田社長に呼ばれ、来年3月から日経グローバル化の大きな第一歩としてニューヨーク、ロンドンに編集総局を新設、現在の特派員体制を大増強する、初代米州編集総局長に菅谷君を任命する。重大任務なのでしっかり頼むと言われた。産業部時代の前述した7回もの海外取材で成果を挙げた事が新任務の大きな要因になった。

世界を生きる No.24
「日経米州編集総局長時代10」

To be continued

東京家政大学ビジョン150

理念

存在意義（パーパス）

行動指針（ミッション）

理念

建学の精神「自主自律」

生活信条「愛情・勤勉・聡明」

存在意義（パーパス）

知と技で自他の可能性を広げ、
人がつながる社会の起点となる。

東京家政大学は、すべての人が自分らしく暮らし、
人生を全うすることができる社会、
人と人がつながる社会の実現に貢献します。

東京家政大学が大切にしているしなやかな知性と実践に基づく専門性は、
自分自身の人生を切り拓くだけでなく、
他者の可能性をも広げることができるものです。

東京家政大学は、すべての人が支え合い、
認め合うことのできる社会に向けて、
自ら最初の一歩を踏み出す人を育みます。

行動指針（ミッション）

1. 理念・目的
大学・大学院・短大の理念・目的に即し、必要な改革を断行する。
2. 入学者の積極的な受け入れ
急速に進む少子化・社会の変化を直視し、学ぶ意欲のある多様な学生を積極的に受け入れる。
3. 学習・教育
「人をつなぐ専門力」（専門に関する能力×汎用的能力）の育成に邁進する。
4. 学生支援・キャリア支援
すべての学生がそれぞれの可能性を発見し、伸ばせるよう支援する。
5. 研究活動
教育研究を支える環境や条件を整備し、研究活動を活性化する。
6. 社会連携・社会貢献
地域社会や企業等との連携を通じて、大学の教育研究の成果を社会に還元する。
7. 生涯教育・キャリアアップ
本学の強みを生かし、広く社会人等に対し充実した学びの機会を提供する。



2025年度
板橋・狭山キャンパス
緑苑祭
フォトレポート



TOKYO KASEI PRESS Vol.106

学校法人渡辺学園 広報誌なでしこ
令和8(2026)年1月発行

発行人 菅谷 定彦(学校法人渡辺学園 理事長)
編集責任者 若井 絹江(広報・宣伝部 統括)
編集メンバー 川口 恵美子、田中 江梨子、後藤 直哉、
坂本 理恵、綿貫 里穂、平松 華歩
学校法人渡辺学園 広報・宣伝部
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL 03-3961-5690
デザイン SS Design
印刷 上毛印刷株式会社

掲載希望の記事がありましたら、広報・宣伝部にご連絡ください。



TOKYO KASEI PRESS
バックナンバー



Instagram

本学の魅力や最新情報を発信中!
“フォロー”や“いいね”
よろしくお願ひします!



TOKYO KASEI PRESS Vol.106
アンケート



学生広報メンバー
応募フォーム

ご協力を
よろしくお願ひします!

ご興味のある方は
広報・宣伝部に
お気軽にご連絡ください!